



北陽小だより

令和2年10月8日

白山市立北陽小学校

～R2学力調査号～

<R2年度の学力調査問題（自校採点）の結果をお知らせします>

北陽小学校では7月に、4月に実施予定だった全国と県の学力調査問題に取り組みました。対象は6年生と4年生でした。6年生は全国の国語と算数、県の社会と理科の4教科、4年生は県の国語と算数の2教科を実施しました。調査問題の結果から、教職員の指導の成果や課題、児童に育むべき力が見えてきました。これからの教育活動、授業改善に生かしていきます。

また、同時に行った質問紙調査の結果からは、児童の生活実態や授業に対するとらえ方なども見えてきました。これからの授業改善や学校の取組の修正、個別の支援などに生かし、それらを計画的に行っていこうと考えています。

○各学力調査問題の結果から

今年度は、一斉実施が中止になったため、全国・県の結果が出ていません。そのため、前年度のように結果について、平均に対して上回る（下回る）などと示すことはできません。各教科の採点結果からわかった児童の成果や改善策についてお知らせします。改善策については、これからの、授業や朝学習などでの指導に生かしていきます。

【6年国語科の成果と改善策について】

インタビューの様子を記した文章から、取材の進め方やメモの取り方を選択する問題はよくできていた。

文章で解答する問題では、条件を満たす書き方ができていない。また、相手に伝えるための文末表現、**作文用紙の使い方**が十分に身に付いていない。

単文解答の問題では、**文章の主語に対して述語の部分**を照応させて書き換えることができる力が不十分である。

選択問題では、正しく被修飾語を選ぶことができない児童が多かった。

文章解答の問題で、回答率が低だけでなく、無解答率も高かった。**授業の中で、正しい文章表現で話すよう言い直しをさせたり、記述解答問題に取り組む機会を増やし、解答指導と再度の取組を行ったりする。**

【6年算数科の成果と改善策について】

教科書やドリルで取り組んだ基本的な問題では、多くの児童が正答できていた。

問題文中の式の数字が何を表しているか問う問題など、**算数用語を適切に使って考えを説明する**問題では、正答率が低かった。

文章解答の問題では、無解答率が高かった。問題には例が示されているが、文章解答への苦手意識が高いことが考えられる。

基礎的学力を活用するミニプリントに取り組む機会を増やし、解答指導と再度の取組を行う。



【4年国語科の成果と改善策について】

多くの設問で何が問われているのかを理解できなかったためか、誤答が多かった。国語辞典の使い方（載っている言葉の形に直す）、修飾語を選ぶという基本的な問題も誤答が多かった。

文章解答の問題（80字以内）では、無解答率が約40%だった。テンポのよい授業をし、テストの時間を区切り、速読する力やメモをとることなどから情報を読み取り条件に従って書く力、時間内に解答する力が必要である。

授業では、**文を読んで大意をつかみ、自分の考えを書くことに力を入れる**。また、**記述の解答問題に数多く取り組み、解答指導と再度の取組を行う**。

【6年理科の成果と改善策について】

昆虫の体のつくりや蒸発などの目に見える自然現象の理解は、高い。

一方で、空気の体積の変化や電流の流れなど目に見えないことを**モデル図で考えを表す**問題では、誤答が多かった。

また、現象やそこからわかることを、**理科用語を使って適切に表現すること**を苦手とする児童が多く、無解答率も高かった。

考えをモデル図で表し、言葉で表現させるなど、授業改善を進める。

【4年算数科の成果と改善策について】

繰り上がりがないなど、基本の問題では正答率が高かった。しかし、繰り上がりやあまりのあるわり算などでは、正答率が下がり、20%強の誤答者がいた。

2つの棒グラフから読み取れることを表現するなど、**複数の情報を関連づけたり、比べたりして解答する問題**が特にできていなかった。

問題の意味を読み取る力が必要となる問題に取り組みさせていく。

【6年社会科の成果と改善策について】

生活に身近なものや地図記号の問題では、正答率が高かった。

複数の資料からわかることを関連づけて説明したり、2つの資料が表す事実から疑問を見出し、学習問題を作ったりすることができていない。

地図帳などを使って解答する問題でも、問題の意図が理解できなかったため、正しく解答できなかったり、無解答であったりした。

資料から読み取れることと、そこから考えられることを明確にし、根拠・理由と共に考えを表す取組を進める。

○質問紙の結果から

生活面では、ほとんどの子どもが毎朝の起きる時刻が決まっており、朝食を食べて、しっかりと登校できている様子が見られました。しかし、就寝時刻がまちまちな子どもが18.7%いました。また、テレビやゲームのルールがあまり守られない子どもも多くいました(44.0%)。平日4時間以上テレビやゲームをする児童が15%弱いることも心配です。ご家庭と連携し、子どもたちが健康な生活を送ることができるようにしていきたいと考えています。

学校では、自分の考えを発表する機会が与えられていると感じる子どもが89.3%いながらも、自分の考えをうまく伝えることができたと感じる子どもは52.0%でした。資料を用いたり、ICT機器を活用したりして、確かなコミュニケーションが取れる子どもたちに育てていきたいと考えています。

毎日の学校生活を楽しく、充実したものにできるよう、これからも子どもたちの様子や変化にアンテナを高くし、ご家庭との連絡を密にしていきたいと考えています。これからも、よろしくお願ひします。